

ふ 第5回河合小学校ふるさと大運動会 ふるさとを笑顔でつなぐ

6月4日（土） 河合小学校

6月4日、河合小学校で「ふるさと大運動会」が開かれ、全校児童47人と地域住民が参加し、総勢約300人が競技を楽しみ、交流を深めました。

ふるさと大運動会は、地域全体で学校行事を盛り上げようと、4年前から毎年行っています。

今年のスローガンは「ふるさとを笑顔でつなぐ運動会」。このスローガンの下、紅白に分かれて綱引きやリレーなどの競技のほか、全校児童による応援合戦、地元消防団による小型ポンプ操法の展示などが行われました。また、最後は全員で盆踊りを楽しみました。



綱引きで勝利し喜ぶ児童

地 宮川小児童がそば打ち体験 元に伝わる味覚を学ぶ

6月2日（木） 宮川小学校

宮川小学校の全児童16人は6月2日、同校でそば打ち体験を行いました。

これは、地域の豊かな自然や文化を学ぶ体験学習活動として毎年行われています。今回も万波そばの会のメンバー3人を講師に招き、そば打ちを行いました。

児童らは会員からそば打ちの手順や道具の扱い方などを教わった後、3グループに分かれて小麦粉2、そば粉8の二八そばを作りました。

同校4年生の宮前心寧さんは、「伸ばすところが難しかったけど、楽しくできました」と笑顔で話していました。



大きな包丁でそばを打つ児童

神 本に親しむ憩いの場へ 岡図書館がオープン

6月4日（土） 神岡図書館

神岡図書館が6月4日、神岡振興事務所の1階に移転しオープンしました。

オープニングイベントでは、最初に神岡民謡保存会による船津めでたや神岡音頭が行われ、山本教育長の開式の後、梶田先生からの本の贈呈、神岡中学校生徒による吹奏楽演奏や合唱、飛騨神岡高校生徒によるロボット模擬試合やミニ俳句の披露など多くの催しが行われました。

主催者あいさつで都竹市長は「図書館は地域にとって重要な建物。神岡図書館は、本に親しむ場として、生涯学習の拠点として、コミュニティの中心としての憩いの場として活用してもらいたい」と述べました。



テープカットでオープンを祝いました

み 古川小学校で田植え体験 みんなで楽しくお米作り

6月3日（金） 古川小学校

古川小学校の5年生児童73人は6月3日、町内の田んぼで田植え体験をしました。

農家の田中一男さんの指導の下、児童らは5畝の田んぼにモチ米の苗を手で植えていきました。今後は、水の取り入れや稲の生長の観察を行い、稲刈りや親子で餅つきなどを行う収穫祭、米についての発表会などを行う予定です。

同校5年生の垣内陽香理さんは「家の近くで田植えをやっているのを見て楽しそうだと思っていたけど、苗を立たせて育てるのが難しかった」と話していました。



裸足で田んぼに入り手作業で苗を植える児童

吉 藤まつりでの収益金を被災地へ 城高校茶道部が義援金を寄付

6月14日（火） 市長室

吉城高校茶道部は、5月22日に行われた「復活!安望藤園」藤まつりで、熊本地震チャリティーと銘打ち茶席を行いました。

6月14日には、部長の柚原明妃さんらが市役所を訪れ、熊本地震の復興に役立ててもらおうと義援金1万5,267円を市長に手渡しました。

柚原さんは「吉高地域キラメキ（YCK）プロジェクトの一環として、茶道部として何かできないかと思い、今回の活動を行った。今後も地元の高校として、地域貢献をしていきたい」と話していました。



募金は日赤を通じて被災地へと送られます

飛 鮎飛さん長年の活動に感謝状 驛の語り部として歴史を繋ぐ

6月9日（木） 市長室

飛驒の語り部として活動を続ける鮎飛定男さん（古川町三之町）は、毎年5月に高山市高根町で開催される「野麦峠まつり」の会場で、かつて飛驒地域から野麦峠を越えて長野県の製糸工場へ出稼ぎに行った女工の姿を語り続けています。長年の活動に対し、感謝状が贈られたことを受け、6月9日に市役所を訪れ市長に報告しました。

都竹市長は「長年のご苦労に敬意を表するとともに、後世に伝える語り部として、今後もご活躍願いたい」と話していました。



感謝状を持つ鮎飛さん（左）と都竹市長

防 熊本地震における課題検討委員会が初会合 災体制を強化し、市民の安全・安心へ

6月15日（水） 市役所

市は6月15日、熊本地震における課題検討委員会を開きました。

これは、4月に発生した同地震では、自治体の災害対策本部の設置や避難所運営が計画通りに実施できなかった現状を学び、市の防災対策に役立てるのが目的です。

委員会では、被災地に派遣された市職員等の報告などに基づいて、「飛驒市地域防災計画」と照らし合わせながら検証しました。

都竹市長は「各部署で課題を検討し、対応できることはすぐにしていきたい」と話していました。



初会合であいさつする都竹市長

が 更にあんきに暮らせる町を目指して んと災害の協定 調印式

6月14日（火） 市役所

市は日本生命保険相互会社（日生）と「がん検診受診率向上に関する連携協定」を、中部電力株式会社（中電）と「災害時における復旧用前進基地の使用に関する協定」をそれぞれ結び、6月14日に調印式を行いました。

日生との協定では、同社岐阜支社が行う戸別訪問の際に、市が作成したがん検診の普及啓発用リーフレットを配布することで、受診率向上を目指します。

中電との協定では、災害発生時に市有施設の駐車場などを災害復旧拠点として提供します。

都竹市長は「このような協定を結ぶことができ、心強い」と話していました。



連携協定書を手にする
中島岐阜支社長（左）

災害協定書を手にする
中川高山営業所長（左）



スーパースーパーカミオカンデが観測20周年

6月17日（金） 富山市

東京大学宇宙線研究所では6月17日、富山市のホテルでスーパーカミオカンデ（SK）観測20周年記念シンポジウムを開きました。このシンポジウムは、神岡町茂住地内にあるSKでの観測開始20周年を記念して開かれ、文部科学省、米国エネルギー省や国内外の大学研究者等約250人が参加し、研究成果や今後の研究計画に関する講演がありました。

開会のあいさつで同研究所所長の梶田隆章先生は「20年間無事にニュートリノ研究を進めることができたのは、関係者皆様のご協力のおかげです」と感謝の意を述べました。

その後、祝賀会が行われ、来賓あいさつで都竹市長は「日本、世界を代表する研究機関である。皆さんの研究を精一杯応援します」と祝辞を述べました。



あいさつする梶田先生（左）と都竹市長



鏡開きで20周年を祝いました

ばら園まつりが開催

6月19日（日） 香愛ローズガーデン

（株）飛騨ゆい河合事業部は6月19日、河合町の香愛ローズガーデンで「ばら園まつり」を開きました。

会場では、さまざまな種類のバラが見ごろを迎え観光客を魅了したほか、ミニSL体験や各種バザーなどが行われ、訪れた方を楽しませました。

ローズガーデンでは、6月から10月にかけて次々と花を咲かせ、食堂ではバラを利用した料理が楽しめます。

香愛ローズガーデン営業日

～7月18日（月） 通常営業（木曜日休み）

7月19日（火）～10月7日（金） 土日祝日のみ営業（平日休）

10月8日（土）～10月23日（日） 通常営業（木曜日休）



鮮やかな花色とバラの香りを楽しむ来場者

ト 神岡鉱業が機関車などを寄付 ロッ庫再出発

6月16日（木） 旧奥飛騨温泉口駅

レールマウンテンバイクが発着する旧奥飛騨温泉口駅の駐車場に6月16日、かつて神岡鉱業で使われていた電気機関車などが展示され、お披露目式が行われました。

この機関車などは、20年以上前まで鉱山内で作業員を乗せたトロッコを引くのに活躍しており、所有する同社が使用していた機関車の利活用を図ろうと市に寄付したものです。寄付された機関車は、レールマウンテンバイクを運営するNPO法人「神岡・町づくりネットワーク」が管理し、駅の魅力を高めるために、レールや枕木を敷き、展示されています。



お披露目式されたトロッコ庫の前で記念撮影する関係者